

| 教科 | | 美術 | | 科目 | 構成 | | 単位数 | 3 単位 | | | | | | | | |
|--------|-----|---|-----------|--|---------------|---------------------------------|-----|------|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 学年 | 1 年 | 科 | 美術造形デザイン科 | 専攻・コース | | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | | 光村図書 美術 1 | | 副教材 | 敵宣テキストプリントを配る | | | | | | | | | | | |
| 学習到達目標 | | 造形的な創造活動の基本となる諸要素の理解を深め、 ○形態と色彩について基本的な知識を元に自分らしい表現に展開していく事が出来る。 ○紙の種類や特徴を理解し、立体的に加工するために必要な行程と関連付ける。 ○素材の多彩な表情を発見し、その質感を魅力として造形表現に展開する事が出来る。 ○形態と色彩、材料を関連付け、多角的な発想力をつける。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価の観点 | | ○形態と色、材料に対する多様な表現方法に関心をもち、美的デザイン活動に課題意識を高め、意欲的主体的に表現活動に取り組む。 ○構成を工夫し、自己の追究したい主題の構想を練る。 ○材料の生かし方などの技能を働かせ、意図に応じ表現方法を選択することが出来る。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 期 | 月 | 学習内容・項目 | | 学習のポイントと到達目標 | | 備 考 | | | | | | | | | | |
| 前 | 4 | 色相環 色立体 | | ○色相環の基礎知識を理解する。 ○色立体の基礎知識を理解する。 ○色の三属性を理解する。 ○トーンについて理解する。 ・基礎知識により色の世界に関心を持ち言葉で色を表現する方法を覚える。 | | | | | | | | | | | | |
| | | グレースケール 等色相面 配色計画 | | ○色の対比について理解する。 ○グレースケールについて理解する。 ○等色相面について理解する。 ・明度、彩度を理解し、明度差、彩度差を識別し、再現することを覚える。 | | | | | | | | | | | | |
| | | 平面構成 I 「味覚」 色の持つイメージの視覚化 | | ○対照的な味覚を選択し、直線、曲線、円を使って形と色で味覚のイメージを表す。 ○味覚を言語化することから形のイメージとなる要素を発想することを理解する。 ○道具を使って美しい図形を描く。 ・イメージに合う色の選択と組み合わせ ・彩色の美しさ。 ・イメージに合う形を構成する。 ・透明感を表す色づくりを覚える。 | | 資料収集 エスキース 作品全体講評 作品提出 | | | | | | | | | | |
| | | 平面構成 II への導入 | | | | | | | | | | | | | | |
| 期 | 5 | 平面構成 II 「野菜 自然物」 形態と色彩の視覚化 | | ○キウイフルーツ、トマト、パプリカ、かぼちゃ、キャベツなど自然物の形態を理解する。 ○モチーフをデフォルメし、デザイン化する。 ○モチーフの持つイメージを言語化し、画面構成する。 | | 資料収集 エスキース 作品全体講評 作品提出 | | | | | | | | | | |

| | | | |
|------|---|--|---------------------------------|
| 8 | 平面構成 II 「野菜 自然物」 続き | ・モチーフから発想出来る様々なことに思いを広げることができたか。 ・自分のテーマをもとにモチーフの特徴を生かした構成や表現を工夫出来たか ・用具を使って美しい彩色をする。 | 資料収集 エスキース 作品全体講評 作品提出 |
| 9 | | 次回、後期からの制作を踏まえ、資料収集にあたる。 | |
| 期 月 | 学習内容・項目 | 学習のポイントと到達目標 | 備 考 |
| 10 | 立体構成 段ボールクラフト 「靴」 | ○モチーフの構造を理解する。各パートごとに形態を構築するデザイン的要素と構造体としての要素があることを理解する。 ○靴をよく観察し、各パートを平面上に型紙としておこす。面のつながりを立体的においデッサン力を養う。 | 資料収集 エスキース 作品全体講評 作品提出 |
| 後 11 | | ○靴という人工物をペーパークラフトとして紙の質感と形態の魅力を引出し、造形として表現を追求する。 | |
| 12 | 平面構成IV 「鉛筆」 形態の理解と質感の視覚化 | ○鉛筆の形態、素材の特徴をアイデアの元とし、それが伝わる構成をする。 ○陰影をつけ立体物として表現する。 ○複数配置構成し、前後の空間を構成する。 ○彩色面を平塗で表現する。 ・長い短い、削る、描くなどモチーフの特徴を構図に活かせたか。 ・プロポーションを正確に描くことができたか。 ・固有色の陰影を稜線で理解しラインで表現出来たか。 ・画面の奥行きを考えた配置、彩色が出来たか。 | 資料収集 エスキース 作品全体講評 作品提出 |
| 期 1 | | | |
| 2 | 写真模写とハイコントラストイラスト 「靴」 形態と光と色の関係を視覚化 | ○写真を元に白黒の2色で靴を現する。形のアウトラインと光の稜線と固有色の濃淡を白と黒のみで視覚化する。 ○立体を形成する要素どうしの関係性を理解し端的な表現と細密な表現を行う事で簡略のもつ潔よさと細密の持つナイープな表現の特徴を理解し、自分の意図する表現の疎密感をつかむ機会とする。 ・写真選択には、色と形と光が読み取る事が出来る画像を選ぶ事が出来たか。 ・靴のデザインを理解し、光と質感から形態を描いていく実感を持つ事が出来たか。 ・絵の具の重なり、ぼかしの表現に挑戦し、ナイープな色の変化を利用しリアルな表現が出来たか。 | 資料収集 エスキース 作品全体講評 作品提出 |
| 3 | | | |

| 教科 | 美術 | 科目 | 素描 | 単位数 | 2 単位 |
|--------|--|---|--|---|------|
| 学年 | 1 年 | 科 | 美術造形デザイン科 | 専攻・コース | |
| 教科書 | 光村図書 美術 1 | | 副教材 | 適宜テキストプリントを配布 | |
| 学習到達目標 | ○造形表現の基礎となる描写力を習得する。形体や色彩などの造形要素を理解し、それらを正確に描写表現するための考え方や技術を学ぶ。 ○作品の密度を高め、完成へと導くために必要な作業のプロセスや思考力を鍛える。 ○絵具や用具の特性を充分に理解し、表現に応じた使い方ができることを目的とする。 | | | | |
| 評価の観点 | ○各種モチーフから与えられた情報を客観的な観察と描写をもって読み解くことが出来る ○各種モチーフの造形的相互関係や構造など、多面的な観察を追求しながら対象を正しく表現することが出来る。 ○発表・講評会を通して自身の作品と制作過程を省みると同時に、他者の作品から見てとれる特徴や表現技術などの違いを比較・検討し、自己批評することが出来る。 | | | | |
| 期 | 月 | 学習内容・項目 | 学習のポイントと到達目標 | 備 考 | |
| 前 | 4 | ○カラーチャート制作 色の積層 ○カラーチャート制作 色の混色 ○素描着彩 I 「バゲットとレンガ」 | ○透明水彩絵具をはじめ、着彩に必要な用具の説明と絵具パレット制作。 ○透明水彩絵具の特性や扱い方を理解する。(水分調整・筆の使用法など) | | |
| | 5 | ○素描着彩 I 「バゲットとレンガ」 | ○素描で学んだ技術・表現を基に彩色を行い、リアルな描写を目指す。 絵具を積層、混色することで生じる透明感や色の深みを実験する。 全体像と細部を限無く一緒に観察・描写出来る眼を養う。 | | |
| | 6 | ○素描着彩 I 「バゲットとレンガ」 | ○モチーフが複数になることで生じる相互関係に注意を払い、モチーフの固有色に惑わされない、光(明暗)によるトーンで対象を見つめる訓練をする。 モチーフの遠近感によるアウトラインの強弱の違いや、自然物と人工物における光の吸収、反射といった特徴ある現象の差異について良く観察する。 | ○発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。 | |
| 期 | 7 | ○着彩 II 「紙風船とガムテープとチェック柄の生地」 | ○静物着彩としてモチーフの構造、形体、比率、質感、空間感、色彩感覚をトータルに掌握し、遠近法に則った客観描写(着彩)を心掛けれる。 ○透明水彩絵具の特性を生かした表現をする。 | | |
| | 8 | ○デッサン力強化講座 (7.8月月末実施) | ○基本的な描写力のレベルアップ。 特に台座と各モチーフとの関係性を重要視する。 | ○発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。 | |
| | 9 | ○着彩 II 「紙風船とガムテープとチェック柄の生地」 | ○色の透明感や響き合いに細心の注意を払い、表現の美しさと丁寧で綺麗な仕事をする為の工夫を心がけた訓練を行う。 | | |

| 期 | 月 | 学習内容・項目 | 学習のポイントと到達目標 | 備 考 |
|---|----|--|--|---|
| 後 | 10 | ○着彩 II 「紙風船とガムテープとチェック柄の生地」 ○着彩 IV 「ラベル付きのビン・ボトル」 | ○作品の密度、プロポーション・文字の精緻、質感表現、絵筆のコントロールを更に磨く訓練を行う。 ○モチーフをリアルに描く技術とその過程で生じる達成感、喜びを見いだす。 | ○発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。 |
| | 11 | ○着彩 III 「ラベル付きのビン・ボトル」 | | |
| | 12 | ○着彩 III 「ラベル付きのビン・ボトル」 ○素描 I 「写真の細密模写」 | ○一年間の素描実習で培った技術を導入して、写真から立体感・質感・遠近感・臨場感を読み取り細密模写へと展開する。 ○意図をもって構図を決定し、自身の主題と対象に見合ったトリミングを施す。 | ○発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。 |
| 期 | 1 | ○素描 I 「写真の細密模写」 | ○模写を行うことで普段の素描では埋もれている各自のタッチのバリエーションやトーンの幅を増やす。 ○完成図が見えやすい対象の課題であり、作品を完成に至らせる為の計画的プロセスとアプローチの仕方を学ぶ。 | |
| | 2 | ○素描 I 「写真の細密模写」 | | ○発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。 |
| | 3 | ○まとめ | ○1年間のおさらいを口頭で行うと同時に2年次の課題へとスムーズに進行できる為のレクチャーと準備を実施する。 | ○発表・講評会により自身の作品を相対的に鑑賞し、客観的判断のもと長所と改善点を発見する。他者の作品から表現力、技術力、熱意、創意工夫など補足出来る箇所を見つける。 |

| 教科 | 美術 | | 科目 | 素描 | 単位数 | 3 単位 |
|--------|-----------|---|--------------|---|----------------|------|
| 学年 | 1 年 | 科 | 美術造形デザイン科 | 専攻・コース | | |
| 教科書 | 光村図書 美術 1 | | 副教材 | 適宜テキストプリント配布 | | |
| 学習到達目標 | | 基本的なモチーフのとらえ方や表現方法について学び、造形表現の基礎となる観察力と描写力を高める。 ○基本的な、立体・色彩・質感の構造を観察・理解し、的確に表現する事ができる。 ○描画材や用具の特性を理解し、表現に応じた使い方ができる。 ○画面構図や作品密度など、造形表現に必要な感覚を身につける。 | | | | |
| 評価の観点 | | 対象を細かく観察し、自己目標を設定し、意欲的・主体的に取り組む。 ○モチーフに適した構図を理解し、明暗の調子や筆触を構想する。 ○モチーフの構造を正しくとらえ、立体・色彩・質感のとらえ方や表現方法に関心を持ち、筆触などを工夫し、描写することができる。 ○自己の制作を振り返り、客観的に作品やプロセスを観察することができる。 ○他者の表現を意欲的に観察し、以降の制作活動へ生かそうとする。 | | | | |
| 期 | 月 | 学習内容・項目 | 学習のポイントと到達目標 | | 備 考 | |
| 前 | 4 | 鉛筆の削り方 鉛筆でのトーン制作 | | ○鉛筆の削り方を覚える。芯の硬さによって力加減を調節する。 ○デッサンをするための鉛筆の使い方（角度・力加減）に慣れる。 ○炭の特徴（それぞれの濃さ・硬さ）を理解し、重ね具合によって多くのトーンを作る。 ○定規を使って 紙の中心をとり、水平と垂直の線を引く。 | 全体解説 | |
| | | 二点透視法 (石膏正立方体・直方体・円柱) | | | | |
| 期 | 5 | | | ○ベースの構造（二点投射法）を理解し、面や光による色味の違いをよく観察する。 ○構図についての説明を理解し、モチーフに適した構図で画面におさめる。 ○モチーフを正しいプロポーション（幅・奥行・高さ）でとらえ、描写する。 ○トーンや筆触を工夫して、モチーフの平面や、光の方向をあらわす。 | 全体解説 | |
| | | 楕円と質感 (ボトル、レンガ、ボールなど) | | | | |
| 期 | 6 | | | ○石膏円柱で学んだことを生かし、質感、楕円の構造、面や光による色味の違いをよく観察する。 ○これまでの説明や制作で学びとったことから、モチーフに適した構図を考え、画面におさめる。 ○モチーフを正しいプロポーション（部分同士の円の直径のバランス・高さ・取手）でとらえ、描写する。 ○トーンや筆触を工夫して、金属の質感、平面、光の方向をあらわす。 ○ガラスの質感（映りこみと周りの風景との関係）、楕円の構造、面や光による色味の違いをよく観察する。 | 作品全体講評 作品提出 | |
| | | 続き | | | | |
| 期 | 7 | | | ○これまでの説明や制作で学びとったことから、モチーフに適した構図を考え、画面におさめる。 ○モチーフを正しいプロポーション（部分同士の円の直径のバランス・高さ）と関係（本体とラベル）でとらえ、描写する。 ○トーンや筆触を工夫して、ガラスの質感（重み・映りこみと周りの風景との関係）、平面、光の方向をあらわす。 | 作品全体講評 作品提出 | |

| | | | |
|------|------------------------------------|---|----------------|
| 8 | デッサン 「作業する両手」 | ○自分の手をモデルに、人体の構造（肘から指先までの流れ・捻じれなど）部分による肌の表情の違いや動きをよく観察する。 | 作品全体講評 作品提出 |
| | | ○モチーフに適した構図を考え、画面におさめる。 ○手の表情から、今までどんな場面で・どのように手を使ってきたか（自分の内面）を見つめ、生き生きとした表情をとらえ、表現する。 ○手のプロポーション（肘・甲・指のバランス）と、それにによる距離や空間をあらわす。質感・立体感を描写する。 | |
| 期 月 | 学習内容・項目 | 学習のポイントと到達目標 | 備 考 |
| 後 10 | 石膏デッサン面取り (ヴィーナス orアグリッパ) | ○面取りから始める。 ○人体の構造・動きを理解し、石膏の立体や明暗によるトーンをよく観察する。 ○構図についての説明を理解し、モチーフに適した構図で画面におさめる。 | |
| 後 11 | 続き | ○モチーフを正しいプロポーションでとらえ、筆触を工夫して質感・立体感を描写する | 作品全体講評 作品提出 |
| 後 12 | 次回デッサンのため 基礎課題実施 | | |
| 期 1 | 囲み静物デッサン (多めのモチーフで構図の意切り取り方を学ぶ) | ○直方体のパース、長方形のパース、円柱の構造、球体構造を理解する。面や光による色味の違いをよく観察する。 ○これまでの説明や制作で学びとったことから、量の多いモチーフに適した構図を考え、どこでトリミングするか考え、画面におさめる。 ○モチーフを正しいプロポーション（直径・幅・奥行・高さ・厚み）と大きさのバランスでとらえ、描写する。 ○トーンや筆触を工夫して、木材角柱の質感・重み、ガラスの質感・平面、布の質感・シワ、焼き物の質感・重み、球体の質感・光の方向をあらわす。 ○布の描写や、ガラス板の下の表現から、空間や広がりをあらわす。 | |
| 期 2 | 続き | 引き続き完成度を上げる。 基礎の再確認 | 作品全体講評 作品提出 |
| 期 3 | 3点のモチーフ (レンガ、ボトル、球形モチーフ) | ○直方体のパース、長方形のパース、円柱の構造、球体構造を理解する。面や光による色味の違いをよく観察する。 ○これまでの説明や制作で学びとった事からモチーフに適した構図を考え、画面におさめる。 ○モチーフを正しいプロポーション（直径・幅・奥行・高さ・厚み）と大きさのバランスでとらえ、描写する。 ○トーンや筆触を工夫して、それぞれの質感・重み、球体、光の方向をあらわす。 ○モチーフ間の空間や広がりをあらわす。 | |

| 教科 | 美術 | 科目 | コンピュータ 造形 | 単位数 | 2 単位 | | |
|--------|-----|--|---|---------------|------|--|--|
| 学年 | 1 年 | 科 | 美術造形デザイン科 | 専攻・コース | | | |
| 教科書 | | | 副教材 | 適宜テキストプリントを配布 | | | |
| 学習到達目標 | | <p>メディアの特質を生かした表現の構想を持ち、創造的な能力を高める。コンピュータソフト（アドビ・イラストレーターCS5）を利用して表現する能力を高める。</p> <p>○形態と色彩を表すための基本的な機能を理解する。</p> <p>○ベジエ曲線の特徴を理解し、意図する形態に展開していくことが出来る。</p> <p>○繰り返し、変形、透過、などの編集機能をデザインの発想と関連付け、多角的な表現力をつける。</p> | | | | | |
| 評価の観点 | | <p>ソフトの基本機能と特質に关心を持ち、イラストレーターの得意とする表現を味わう。技術の向上に努め、主体的に制作活動に取り組む。デザインの目的を実現するために、基本機能を習得し、それらを効果的に活かした構成を工夫し、自己の追究したい主題の構想を練る。機能を応用し、色彩、形態、空間感、質感の表現など、意図に応じ表現方法を構想し、創造的に工夫をする。</p> | | | | | |
| 期 | 月 | 学習内容・項目 | 学習のポイントと到達目標 | 備 考 | | | |
| 前 | 4 | 基本操作 图形で描く | 基本操作に慣れる。 ・パウンティングボックス ・選択ツール ・ダイレクト選択ツール ・鉛筆・ブラシ・消しゴム ・アンカーポイントの編集 ・レイヤーパネル ・パスファインダ ・カラー・パネル基本 ・線パネル基本 | | | | |
| | 5 | ベジエ曲線機能演習 ベジエドリル トレース | ベジエの基本を理解し、ベジエ曲線の基本操作を覚える。 ・ペンツール基本 ・アンカーポイントの編集 ・パスの編集 | | | | |
| | 6 | ロゴデザイン | 漢字の持つ意味をイメージして言語化し、形、色として視覚化する。 色と線を描く基本操作を覚え、応用する。効果的に行うためのツールを覚える。 ・シェイプ形成ツール ・ライブペイントツール ・グラデーションツール ・ナイフツール | | | | |
| | 7 | | 美しいベジエ曲線を描き、効率よい仕事を身に着ける。ベジエ曲線の編集機能を理解して作品制作に応用させる。 イラストレーションとして見せどころを意識し、リアルに描く、端的描く、重ねる、消す、などラインの密度差により表現の奥行きを工夫する。空間を構築する遠近の表現としてラインの強弱をコントロールする。 | | | | |
| 期 | 8 | アウトラインイラスト | | | | | |
| | 9 | | | | | | |

| 期 | 月 | 学習内容・項目 | 学習のポイントと到達目標 | 備 考 |
|---|----|------------------------|--|-------------------|
| | 10 | アウトラインイラスト | ・ペンツールの応用 ・消しゴムツールの応用 ・コピー、繰り返し応用 ・パスの編集の応用 | 円形バッチのデザインへと応用する。 |
| 後 | 11 | クリスマスカード 文字入力 | 行事を彩り、人に楽しんでもらえるイラストを考案する。 文字入力の基本機能を覚える。 ・エリア内文字ツール ・パス上文字ツール ・文字のアウトライン ・複合パス ・描画モード ・クリップマスク | 円形バッチのデザインへと応用する。 |
| | 12 | | 文字の編集を覚える。平面デザインに於いて文字組は絵と同様に重要な要素である事を理解し、図と文字の役割を考え、どう伝えるのかを総合的に意図して画面を構築する。 ・トランкиング ・カーニング | |
| 期 | 1 | イラストレーション研究 「小さな絵本」 | 本の形態に合わせ、絵の役割と文字の役割を考える。的確な位置にレイアウトし、伝達する機能を向上させることを理解する。 | |
| | 2 | 文字編集 | 文字の編集を覚える。平面デザインに於いて文字組は絵と同様に重要な要素である事を理解し、図と文字の役割を考え、どう伝えるのかを総合的に意図して画面を構築する。 ・トランкиング ・カーニング | |
| | 3 | | ・演習した基本機能を理解して作品制作に応用させる。 ・編集機能を理解して効率的な作業をする。 ・目的や条件を踏まえて主題を生成する。 | |

| 教科 | 美術 | 科目 | 美術史 | 単位数 | 2 単位 | | | |
|--------|-----------|--|---|-------------------------------|------|--|--|--|
| 学年 | 1 年 | 科 | 美術造形デザイン科 | 専攻・コース | | | | |
| 教科書 | 光村図書 美術 1 | | 副教材 | 西洋美術101鑑賞ガイドブック 映像・画集・テキスト | | | | |
| 学習到達目標 | | ○西洋美術・日本美術の主要な作家や作品をとりあげ、古代から 20 世紀に至るまでの西洋・日本美術史の通史を概観し、基本的な知識（作家や作品の内容）を得ることを目標とする。 ○作品を丹念に見る姿勢を身につけること。それによって培われる鑑賞眼と審美眼を基に、造形上の特徴や持ち味を見いだし、それを他者に伝達するが出来るようになることを目標とする。 | | | | | | |
| 評価の観点 | | ○学習した内容（時代背景・様式・社会的動向・作家や作品の内容）に関心をもち、主体的な感覚や感情を得ながら情報を整理することが出来る。 ○鑑賞することで芽生えた「好き」や「楽しむ」の眼と心をレポートや定期試験の記述内容に反映させることが出来る。 | | | | | | |
| 期 | 月 | 学習内容・項目 | 学習のポイントと到達目標 | 備 考 | | | | |
| 前 | 4 | ○西洋美術 <古代> エジプト・ギリシャ <中世/ルネサンス> 初期ルネサンス | ○主要な作家と様式、時代背景を映像資料を交えて解説する。 マサッジョ/フラ・アンジェリコ/ ピエロ・デラ・フランチェスカ/ サンドロ・ボッティチエリ | | | | | |
| | 5 | 盛期後期ルネサンス 北方ルネサンス | ○主要な作家と様式、時代背景を映像資料を交えて解説する。 ミケランジェロ・ブオナローティ/ ラファエロ・サンティ/ レオナルド・ダ・ヴィンチ/ティチアーノ/ ヤン・ファン・エイク/ アルブレヒト・デューラー/ グリューネヴァルト/ ピーテル・ブリューゲル | | | | | |
| | 6 | バロック <近代> 新古典主義 ロマン主義 | ○主要な作家と様式、時代背景を映像資料を交えて解説する。 エル・グレコ/カラヴァッジョ/ ルーベンス/ヨルジュ・ド・ラ・トゥール/ レンブラント/ベラスケス/ ヨハネス・フェルメール/ルイ・ダヴィッド/ ドミニック・アンゲル/ フランシスコ・デ・ゴヤ/ ウジェーヌ・ドラクロワ | | | | | |
| 期 | 7 | イギリス近代 バルビゾン派 印象派 新印象派 | ○主要な作家と様式、時代背景を映像資料を交えて解説する。 ウィリアム・ターナー/ フランソワ・ミレー/カミーユ・コロー/ エドワール・マネ/オーギュスト・ルノワール/ エドガー・ドガ/クロード・モネ/ ヨルジュ・ヌーラ | ○定期試験実施 | | | | |
| | 8 9 | ○日本美術 <室町時代> <安土桃山時代> <江戸時代> | ○主要な作家と様式、時代背景を映像資料を交えて解説する。 雪舟等楊/狩野永徳/長谷川等伯/俵屋宗達/ 狩野探幽/尾形光琳/伊藤若冲/ 歌川広重/葛飾北斎/写楽 | | | | | |

| 期 | 月 | 学習内容・項目 | 学習のポイントと到達目標 | 備 考 |
|---|----|---|---|---------|
| | 10 | ○日本美術 <室町時代> <安土桃山時代> <江戸時代> | ○主要な作家と様式、時代背景を映像資料を交えて解説する。 雪舟等楊/狩野永徳/長谷川等伯/俵屋宗達/ 狩野探幽/尾形光琳/伊藤若冲/ 歌川広重/葛飾北斎/写楽 | |
| 後 | 11 | ポスト印象派 世紀末 表現主義 キュビズム 素朴派 フォービズム エコールド・パリ | ○主要な作家と様式、時代背景を映像資料を交えて解説する。 フィンセント・ファン・ゴッホ/ ポール・ゴーギャン/ポール・セザンヌ/ ロートレック/アルフォンス・ミュシャ/ グスタフ・クリムト/エゴン・シーレ/ エドヴァルト・ムンク/パブロ・ピカソ/ ヨルジ・ラ・リード/アンリ・ルソー/ アンリ・マティス/ヨルジ・ルオー/ マルク・シャガール/ アメデオ・モディリアーニ | ○定期試験実施 |
| | 12 | ○西洋美術 抽象 <近代> ダダイズム シュルレアリスム 近代彫刻 | ○主要な作家と様式、時代背景を映像資料を交えて解説する。 ワシリー・カンдин斯基/ ピート・モンドリアン/パウル・クレー/ マルセル・デュシャン/ジョアン・ミロ/ サルバドール・ダリ/マックス・エルンスト/ オーギュスト・ロダン/ コンスタンティン・ブランクーシ/ アレクサンダー・カルダー | |
| 期 | 1 | ○現代 現代美術 ポップアート 現代彫刻 | ○主要な作家と様式、時代背景を映像資料を交えて解説する。 アンドリュー・ワイエス/ アルベルト・ジャコメッティ/ ジャクソン・ポロック/マーク・ロスコ/ ルネ・マグリット/クリストフ・フランク・ステラ/アンディー・ウォーホル/ ロイ・リキテンスタイン/ヘンリ・ムーア/ ジョージ・シーガル | |
| | 2 | 現代美術 バウハウス 近現代建築 | ○現在進行形である世界の美術動向及び作家の紹介や美術史の知識として抑えておきたいバウハウス（デザイン史）と主要な近現代建築をピックアップして紹介する。 ドクメンタ/ベネツィア・ビエンナーレ/ フランク・ロイド・ライト/ルイス・カーン/ ミース・ファン・デル・ローレン・コルビュジエ/安藤忠雄/SANA | |
| | 3 | ○まとめ | ○一年を通して学んだ内容や情報を美術史年表に照合して総括する。 | ○定期試験実施 |